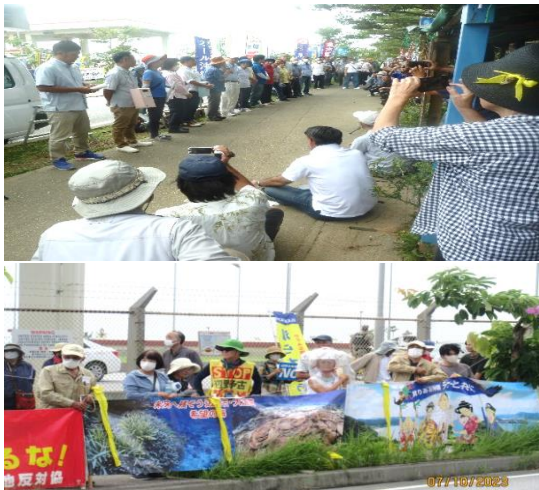


新基地建設反対名護共同センター ニュース

デニー知事を支え、地方自治を守り、勝つまであきらめない



県民大行動に九〇〇人余

オール沖縄会議主催デニー知事を支える県民大行動が十月七日にキャンプシユワブゲート前で行われ、九〇〇人余が参加しました。

徳田博人行政法研究者は、「沖縄の尊厳と地方自治を守る闘い。知事を孤立させてはいけない。代執行は法理論的におかしい。デニー知事は筋を通して、『県民の県民による県民のための政治』をしていてこの闘いは負けていけない」と強く主張しました。

うりずんの会代表の赤嶺政賢衆院議員は「デニー知事は様々な圧力をはね返して設計変更を承認せず、沖縄県民の尊厳を守った。政府にとって恐ろしいのは県民が団結すること。新基地反対の揺るがない決意を示そう」と強く訴えました。

各組織の代表も強い怒りをこめて訴え、参加者の怒りも呼応して熱気溢れる集会になりました。

させることが重要だと考えています。七八年前の沖縄戦の悲劇から学んだ「命どう宝」を武器に沖縄を再び戦場にするのではなく平和の聖地として守り抜くことが、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。



東京土建一般労働組合調布支部 辺野古の海を視察

長い間、労働組合の一員として取り組むべき重要な課題の一つでもある沖縄米軍基地問題。コロナ禍の影響も受けなかなか着手することができませんでした。

今回、念願が叶いようやくスタートラインに立つことができました。私たちの一番の目的は現地に赴き、辺野古基地海上行動に取り組むことです。沖縄の海はコバルトブルーとエメラルドグリーンのコンストラストが見事でした。海中を覗き込むと、そこにはオキナワハマサンゴ、自然が生み出す宝物。残暑と言えど時折、風を這うように心地よい風が流れてきました。そんな中、突然、民間の監視船のスピーカーの声、更に追い打ちをかけて海上保安庁の2隻の船、辺りは急に緊張と恐怖に駆られた。そしてしばしの沈黙。かつて激戦地となった沖縄。至る場所に当時の爪痕を今も残している。資料館巡りでは、映し出された惨禍を目の当たりにする。マスコミでも取り上げられているが国とのたたかいは、まだ続く。

私たちは決して黙認してはいけません。今後にも沖縄県民の皆さんに寄り添い、断固として反対の意志を表明していこう。

私たちでも、できることから

新婦人南風原支部

新日本婦人の会南風原支部は、オール沖縄会議に参加する組織として、毎月第一土曜日に行われる辺野古デモ前行動に参加するのが困難な私たちでも、何かできることはないかと話し合いました。

地元の「南風原島ぐるみ会議」が毎週夕方に宣伝行動をしているので、夕方の時間帯は忙しいので参加は大変、昼間の時間帯が良いという事になり、そこで毎月の辺野古行動日に合わせ、第一土曜日の午前にスタンディングを行うことに。約1年前から宮平交差点で始めました。

車から手振りの反応は良く、隣の与那原町から自主的に参加する人もいるなど「嬉しい反応が寄せられている」とみんな元気です。

浦添東のハンドマイクスタンディング

私たち浦添東は昨年2月から月2回のハンドマイクスタンディングを行ってきました。訴える事は①辺野古新基地 NO、②那覇軍港の浦添移設 NO、③憲法9条改悪 NO の3つのNOを据えました。この3つのスローガンを手書きした大型プラスチックボードで訴えると、車からの手振りやガンバレヨ！の声援もあって良い反応に気を強くしたものです。ロシアのウクライナ侵攻が開始されると、ロシア糾弾も訴えに追加。昨年12月に安保3文書が

閣議決定されると、その不当性と危険性を告発する訴えに力を入れてきました。

この安保3文章に基づいて岸田政権は大軍拡、戦争する国に突き進んでいます。日米の軍事演習の強化、ミサイル攻撃を想定しての避難訓練、シェルター設置の要請、先島住民が島外への避難訓練の動きなどは、県民を戦争への不安と危機感に陥れています。そのような中で、さる9月24日の「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」の立上げは、岸田政権の戦争政策に対抗する大きな力となるものであり、県民が一丸となってその運動を発展

【辺野古移設・代執行訴訟】 第5回口頭弁論報告集会 に結集を！

時:10月19日(木)13時50分
所:城岳公園



10.21 県民集会に参加しよう！

日時 十月二日 (土)
午後三時
会場 平和祈念公園多目的広場
(糸満市)
主催 オール沖縄会議

